

SF

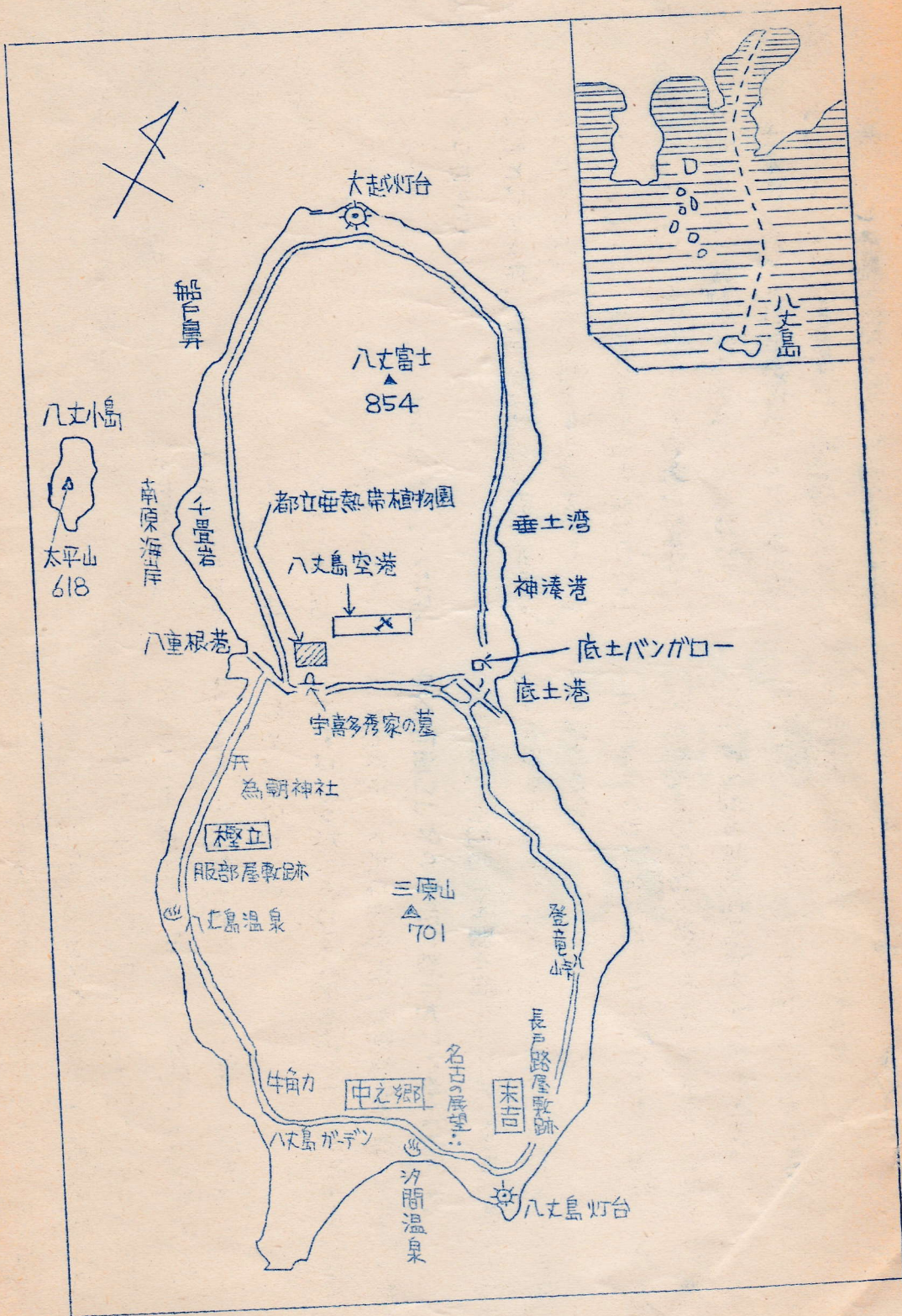
1969-7 No. 3

特集：夏期合宿

太陽と海と緑の島

東洋のハワイ 八丈島

明治大学SF研究会



合宿の目的と意義

SF研究会です、と云って、それではどんなことをやっているのですかとあらたまつて聞かれると、さて返答に惑う。同人誌を発行したり、読書会、科学会・SF講座、討論会などをやっています。へやる予定？も多少後ろめたさを感じながら、半ば機械的にどう答える。目的は？、目的は、SFを通して、古い常識や既成概念にとらわれることのないSF的思考を養い、……。スポーツや音楽のサークルだつたら決してこんな質問を受けることはないだろう。

SFのサークルなどというのは、たゞ単に同好の志の集まりでしかありえないのであるうか。SFの好きな者が集まり、SFを語り（あるいは語らざ）、時には自分達でへたなSF（たし障りがあつたらブメンなさい。たゞ少くとも真剣な態度で、SFを志している人が見あたらないう意味で）を書いて、同人誌を発行する。それはそれで大いに結構なことではある。ただ、その場合において、SFはたゞ単に、娯楽性のみのも、気晴らし、あるいは暇つぶしの読み物ではないということは確かたことである。もし、SFがさういふものでしかないので

としたら、たとえ、大学のサークルのさう一才の目的がサークル員相互の人間関係を深め、豊かな人間性を形成することだといつても、それではSF研究会はあまりにあざなりなものになつてしまつたろう。SFには単純なボクの弱點を割り引いて考えこそ、残る何かがある。そう思っている。

何か、何ですか？

SFは、究極における人間を描くことができる。真の人間性、言い換れば、人間の奥底に潜む動物的本性、さういふものは完全に追いつめられた状態において発露される。

SFは、客観的に人間を描くことができる。遠く地球を離れて、火星から白鳥座から一番星から木モ・サビエンスを観望することが出来る。

SFは、人間以上を描くことができる。同時に人間とは何かといった大きな問題の核心にきつとり早く触れることができる。

SFは人間の可能性を描くことができる。

SFは、はるかかなる未来を描くことができる。そしてまた、はるかかなる過去を描くことができる。

SFは、すばらしい風刺文学となりうる。それは人間社会のみならず、人間の存在そのものを風刺することができる。

SFは、この上ないファンタジイを提供してくれる。

これだけのものから、何かが出てこないほうがどうかしている。

SFは、豊かな可能性をそった文学形式。そして文句なく楽しい小説。

そんなSFを、今回の合宿で、少しでも再認識（あるいは認識）することができたかと思っています。合宿で、SFのことについて、どれだけの活動ができるかは疑問なんです。各自の心構えひとつです。そうかと言って堅く考えることは、もちろんありません。こちらとして、八丈島へ来てまで、SF・SFと言いきくはありません。ただ、ほんの少しでも、SFについて真剣に考える時をそつてもらいたいということ。です。

そう一つの目的であるサークル員の間関係のほうは、一週間は一緒に生活すれば、どうしたって親密になるでしょう。

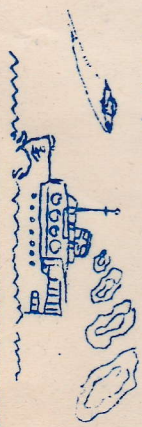
とにかく、楽しくやります。合宿が終わって、皆が、楽しかったと思うようなものであれば、合宿の目的は半ば達せられ、意義は大いにあったもの、そう思いますから。

●船酔い防止のヒケツ

船に酔わぬは長上のヒケツは「絶対に酔わぬんだ」という自信を持つことであるが、それが無理なら、船酔い防止の薬を飲むことである。絶対に酔うと思ふ人は、まず乗船と同時に飲むのであるが、同時に精神安定剤（5ミリグラム）も1〜2錠飲む。

東京湾を離れるまでは、よほどの天候でなければ、船は鏡の上をすべるように走るから、船が出たからと、行ってすぐ船室にもぐる必要はない。しかしそうかといつて走りまわって騒いでいると、ズツと急に何かが目上げてくるから、船の消燈時間の午後11時ごろまでには横になっていられるほうがよい。

揺れの少ない場所は船の中央で、頭も船の中央に向けたい。そして早く眼もつぶって、眼を誘うように心がけるべきである。ともかく眼をこらさず。



〈八丈島プロフィール〉

東京から南へ約二九〇キロ、四国の室戸岬とほぼ同じ緯度にあり、同じように黒潮に洗われる八丈島は、南四国や南九州に似た緑におおわれており、その中でも熱帯植物の数が眠をひく。八丈島は「日本のハワイ」が、キャッチフレーズであり、ハワイ諸島の一つマウイ島とは姉妹島の提携をしている。

空港に近い都立亜熱帯植物園は、八丈富士南麓の三万五千平方メートルという広い地域にわたり、自然木の間にバナナヤフエニックスをはじめ、さまざまの亜熱帯植物を植えたもの。まわりの風景は明るく、赤砂利の道は軽く、見て楽しく、歩いて楽しく、読書会をして楽しい植物園である。

こうした位置にあるためであろう。八丈島には伝説、とくに漂流、漂着に関する伝説が多い。日本の他の土地では聞かれないような伝説がある。

秦の始皇帝の命を受け、不老不死の薬を求めて東の海に船出した。徐福一行の船団が、強い潮流のため、ちりじりばらばらになり、五〇〇人の童女をのせた船が八丈島に流れつき、青々島には男をのせた船が漂着した。八丈島を女護島とする伝説の起源である。

男たちと女たちは神を恐れ、別々の島に住み、年に一度は南風の吹く日に男たちが八丈島へやって来た。その時、女たちは島の浜辺にそれぞれのつくったざつりを並べて待った。

南風から皆出ておしゃべり
迎之草履の紅雲并緒

と「シヨメ舞」に歌い出している情景である。

女たちは、自分のざつりをはいた男を夫として受け入れ、一夜限りの夫婦生活に女の熱情を注ぎつくした。八丈の女が外果者に対して心あたまがなのもさうしたところから起る「この島」という。現在とさうておまかは、は、まじりしていない。有志は試みるのも良いだろう。

とにかく八丈という所はすばらしい所である。バナナはまる前に自生し、パイナップルは食べ放題であるという噂もある。海はあくまで蒼く、きらいな砂浜には、火星シリーズに出てるようなピキニ姿の美女が、はいてすてる程いものです。

とにかく、一度行ったら二度と忘れられない島、それが八丈島であります。

流れ星

藤島英紀

私はとうとう寝つかれずに起き上がった。こうむし暑くは寝られぬ訳がない。その上、こんな下せまいバンがローに4人そ詰め込むなんて。誰がこんな島に行こうなどと言いだしたんだ。

私は憶りを感じた。他の三人は気持ち良さそうに寝ている。あたりは、その三人が登するスヤスヤとかグーグーといういびきと、キリキリいう蟲の音以外は聞こえなかった。いや、聞こえた。蚊が一匹私の耳のそばを這って行った。私は、その蚊を目で追っていた。すると愉快なことにその蚊は寝ている三人のうちの一匹のほっぺたに見事に着陸した。私はそのまま見守っていたが、しばらくすると飛び去っていった。私は外に出て、あばらしく晴れわたった空を見上げた。東の空には、下弦の月が明るく照っていた。月から目を離していくと、星が無数に光っていた。天の川は

すでに西へ傾いていた。その時、ひとつの流れ星が天の川をよぎった。私は、流れ星が消え去らないうちに願い事をすると、それがかなえらぬらという語を思い出した。私は、しばらく空を見上げて流れ星を待たずぐぐそのチャンスは到来した。私はすばやくこうつぶやいた。「寝かせてくれ！」

翌朝、私は外に寝ていたのを皆に見られて、その笑いの種になった。しかし昨夜のことは遂に言わなかった。いくらSUF研の会員とは言えども信じてくれない確かだ。笑っていたやつらのなかに、ほっぺたを蚊にくわれたらしく赤くはれてる奴がいたから。



合宿日程

7月~~29~~日(月)
28 全員集合 (P.M 1:00 和泉校舎)
買出し、食糧、装備の準備

7月~~30~~日(火)
29 全員集合 (P.M 1:00 和泉校舎)
荷物分担、打明せ、

7月31日(木) P.M 4:00 竹芝桟橋集合
P.M 6:00 出航

8月1日(金) A.M 8:00 八丈島底土港到着

8月7日(木) A.M 9:00 八丈島出航
P.M 10:00 竹芝到着
竹芝桟橋にて解散

会計予算

個人負担費用 7500円

諸経費予算 (1人分の計算)

船賃(往復)	1900円	
バンガロー代	2400円	(1人/泊400円)
食糧	2100円	
装備	300円	
医薬品	200円	
渉外経費	200円	
コンパ	400円	

現地連絡先

東京都八丈島八丈町大字三根 底土バンガロー
(電話) 04996-2-1121 石野方

人事名簿

合宿責任者 大西 尹明

合宿リーダー 北島 利率

合宿委員長

△ 藤本佳延 (渉外) 北島利率 (進行) 横山正紀 (収象)
出原祥二郎 (会計) 長田和子 (食糧) 坂井百合子 (記録)

食糧管理班

△ 長田和子 池西英幸 庄司修一郎 丸山正子

医療班

△ 清川礼子 坂井紀子

写真班

△ 松本博 飯田一夫 井沢誠一郎 横山正紀

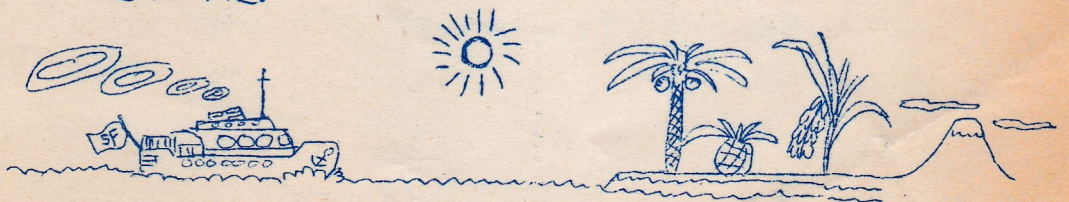
コンパ係

△ 横山正紀 小島義一郎 向後益男

[バンカロー人員構成]

B1	△ 北島利率	有馬賢象	野上映一	向後益男
B2	△ 翠川英夫	井沢誠一郎	出原祥二郎	
B3	△ 松本博	中野修一	池西英幸	
B4	△ 清川礼子	坂井百合子	丸山正子	
B5	△ 坂井紀子	長田和子	沼間一美	
B6	△ 谷口清	飯田一夫	横山正紀	竹浪隆平
B7	△ 藤本佳延	小島義一郎	庄司修一郎	

但し、8月1日~3日迄とする。4日~6日間については抽選により決定する予定。



< 活動内容 >

日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月1日(金)			八丈到着	整理	休養		昼食		渉外	買出し	洗濯作り	夕食			読書会		ねる
2日(土)	6 おまる	朝食		バンガロー出発	植物園へ	読書会	12 昼食		見物	植物園出発	バンガロー着	17 夕食			歌の会 (free)		ねる
3日(日)	6 おまる	朝食		科学会			12 昼食		free			17 夕食			SF講座		ねる
4日(月)	6 おまよ	朝食		バンガロー出発	八丈富士へ		12 昼食		富士出発		バンガロー着	17 夕食			ゲーム大会		ねる
5日(火)	6 起床	朝食		読書会			12 昼食		free			17 夕食			free talking		寝癖
6日(水)	6 おあこめ	朝食		SF講座			12 昼食		free			17 夕食			コンパ		ねよう
7日(木)	4:30 何か何でも	6 起こす	7 朝食	8 整理	9 八丈出発												

(東京到着は22時の予定。但し、しばしば変更アリ。)

* コンパ

- 8月6日. P.M 6:00 ~ 9:00 海辺にて、キャンプファイヤーを囲んで行う。
- ビール・酒・ウイスキー等を大いに飲む。(各自持ちこみ自由)
- ノークラック同好会の会員のかたでるギターに合わせ皆で大きな聲で歌う。1・2年生が隠し芸をひろうする。二次会はゴーゴー喫茶へ行く。
- 雨天の場合は各バンガローで、しめやかに行う。

○ 読書会

① スペース・オペラ

課題として、「レンズマン・シリーズ」「スカイラーク・シリーズ」「金星シリーズ」「火星シリーズ」「キャプテン・チャーシリーズ」以上のシリーズの中から、一つを選び、そのシリーズについて少くとも二冊を読む。目的はSFはスペースオペラに始まり、現在でもSF＝宇宙船と考える人は多い。この事実の上立ち、SF研として、スペースオペラに対する見解を、つめることを意図する。

② 現代SF 「結晶世界」へJ・G・バラード

マンネリ化しつつあるSFにおいて、新しいSFの方向を示し、可能性を生みだし、つづつのがいわゆるTNTです。その代表的作家バラードの、幻想的な美しさをもち、あまりにも文学的な「結晶世界」を読んで、現代SFの神髄に餘念ないと思えます。古き良き時代のスペース・オペラと時代の最先端を行くTNTを読書会に選んだ、読書会企画部のセンスの良さは抜群であると言われている。

読書会企画部

○ SF講座

① 作家論（星新一・クラーク・ウエルト etc.）

② TNTの世界・ウエルズとウエルヌの比較考察・スペースオペラの世界・SF映画論・SFと現代

以上、充実したテキストを配布して行います。

○ 科学会

相対性原理解説

完璧なテキストを配布して、アインシュタインの世界に迫る。

次号SF.4号のお知らせ!

○ スペース・オペラ大特集だよ

・ 池谷勉・幸四郎・中川健三大SF作家の競作!

・ 連作大スペースオペラ「土星シリーズ」連載開始!

○ エッセイ「SFエロチシズムの世界」連載開始!

○ その他、楽しいコラム満載!

○ 7月29日、いよいよ発売!

○ 予価50円（送料は安い!）



装備表

(個人装備) ◦印は必帯

- ✂ ◦ 学生証
- ◦ テラ
- ✂ ◦ 「結晶世界」バラード
- ✂ ◦ 米、2Kg.
- ✂ ◦ 新聞紙 (10枚以上)
- ✂ ◦ マッチ
- ✂ ◦ 懐中電灯 (ヘッドランプ)
- ✂ ◦ ポリタン (水筒)
- ✂ ◦ 軍手
- ✂ ◦ 食器 (キャンプ用、はし、スプーン)
- ✂ ◦ ヒニール袋
- ✂ ◦ タオル
- ✂ ◦ 雨具
- ✂ ◦ 海水着
- ✂ ◦ 折り紙
- ✂ ◦ 洗面具
- ✂ ◦ 運動靴
- ✂ ◦ ぼうり (ゴム)
- ✂ ◦ 筆記用具
- × 地図
- ✂ 着がえ
- ✂ 帽子
- × 細引

予備食

レクレ-ミヨ用具 (楽器、ゲーム類)

~~各自必要と思われる医薬品~~ キンオイル

(団体装備)

ローソク (42キ)

✂ フィルム

ナタ

なべ (2コ)

✂ 飯合 (7コ)

タマ、ヘラ、皿、スポンジ、ナイフ

扇、ナイフ、カン切、セニめき

ベニヤ板

✂ ラジオ (2コ以上)

洗剤 (炊事用) 2

洗剤 (衣料用) 1

(医薬品)

殺虫剤 (2)

カトリせんこう (5)

赤ちん (1)

ムヒ (3)

キンカン (1)

オキシフル (1)

クレオソート丸 (1)

鎮痛剤 (3)

包帯 (1)

バンソーコー (1)

リバテープ (2)

SF 1969-7 NO. 3

昭和44年7月10日 初版発行

*

編集者 藤本 佳延

発行者 藤島 英紀

*

印刷 地球印刷株式会社

製本 株式会社 明大社

*

発行所 明治大学SF研究会

(駿河台・和泉・生田)

協力 世界SF連盟 (ISFU)

監修 アイザック・アシモフ

*

定価 50円

〈検印廃止〉